

予防歯科で健康に

先駆者の 日吉診療所(酒田)



口の中の画像を見ながら、歯を失うリスクについて説明する日吉歯科診療所の熊谷崇理事長
＝酒田市の日吉歯科診療所

虫歯のない人の割合

	日吉歯科で メンテナンスを 受けている人 (2009年)	厚生労働省の 歯科疾患 実態調査 (11年)
12歳	89.9%	67.6%
成人	85.7% (20歳)	10.1% (20～24歳)



自分の歯一生残す

「物が挟まらなくなつたので、つまようじを使わなくなった。検査を受け出血すると恥ずかしいので、歯磨きを欠かさない」。3カ月に1度、細菌のすみかの歯垢(しこう)や歯石を除去するメンテナンスを受けている酒田市内の女性(63)は話す。日吉歯科診療所の熊谷崇理事長は「『年を取ると入れ歯が当たり前』と、21年以上メンテナンスを受けている人が多い。21歳以上のメンテナンスを受

酒田市の日吉歯科診療所(熊谷崇理事長)は、定期的に口の中を掃除する予防歯科の先駆者として知られる。虫歯や歯周病になると、歯を失う危険が大きくなる。歯磨きでは落ちにくい歯周病菌は、全身の病気にも関係している。予防歯科によって歯が健康な人が増えれば、医療費抑制も期待できる。

子供のころから定期掃除

けている場合、失う歯の本数は平均1本」と蓄積したデータを基に効果を語る。

日吉歯科には現在、個室の治療ルームが27。年間延べ約4万3千人の患者のうち約7割がメンテナンスのために来院する。スタッフ50人のうち歯科医師は12人。中心は21人いる歯科衛生士だ。

初診の患者には、歯の左、右、中央について、それぞれ正面、上、下の計9枚の写真を撮影。歯のエックス線写真や唾液検査の結果を総合して、歯を失うリスクを評価し、治療方針を決める。

20歳で虫歯や歯周病に

ならず、メンテナンスを続けければ、自分の歯で一生、食べられる可能性が高まるという。これを実現するために、力を入れているのが、子供の歯のメンテナンスだ。

同市内の母親(37)は小3の長男が虫歯で歯茎が腫れて来院するようになった。初診の検査の後、「歯にあいた穴に、ばい菌が入るので歯茎が腫れる。歯の穴を埋めましょう」と原因と治療方針の説明を受けた。「食べ残しや寝る前にお菓子を食べる習慣が問題」と注意された。

母親は「長男は自分の虫歯を写真で見せてもらってから、寝る前に鏡を見ながら歯を磨くようになった。親に虫歯があるので、子どもには、永久歯をきれいなまま残してあげたい」と定期的に通うようになった理由を話していた。

母親は「長男は自分の虫歯を写真で見せてもらってから、寝る前に鏡を見ながら歯を磨くようになった。親に虫歯があるので、子どもには、永久歯をきれいなまま残してあげたい」と定期的に通うようになった理由を話していた。

母親は「長男は自分の虫歯を写真で見せてもらってから、寝る前に鏡を見ながら歯を磨くようになった。親に虫歯があるので、子どもには、永久歯をきれいなまま残してあげたい」と定期的に通うようになった理由を話していた。

全身の病気とも関係

35歳以上の日本人の約80%が歯周病にかかっているといわれる。歯を失う原因として歯周病は最多の約42%。近年の研究で、歯周病と肺炎や糖尿病など全身の病気との関係が分かってきている。

歯周病は、アルツハイマー病を悪化させ、動脈硬化や早産などの原因とする研究もある。歯を守ることで、全身の健康状態を良好に保ち、医療費の抑制につながることも期待されている。だが、歯周病治療後に受けるメンテナンスの診療報酬は低く、普及のハードルとなっている。

正しい知識を普及

日吉歯科診療所は患者向けセミナーを月1回、開催。歯を失う原因や予防法を説明している。「患者さんに正

しい知識があれば、歯を失わなくて済む人が増える」と熊谷崇理事長は知識普及の大切さを強調する。

これとは別に、歯科医院や若手歯科医師に向けたセ

ミナーを開く。全国から毎年、計約1000人の歯科医師や歯科衛生士が参加する。検査方法や問診票など治療のノウハウを公開。予防歯科の普及に努めている。